

会長 ご挨拶

会長 平田 祐子



会員の皆様におかれましては長引くコロナ禍のもと、それぞれの生活スタイルでお仕事に従事なさっていることと存じます。

新型コロナウイルスの感染拡大から約2年が経とうとしておりますが、2021年の夏には緊急事態宣言下で異例の東京オリンピックが開催されました。日本は過去最高のメダル数を獲得するなど歴史に残るものとなり、また、パラリンピックでは共生社会が実現したことに感動し、出場した選手達は、開催に感謝する言葉やプレーできる喜びの言葉を述べていました。感謝の言葉を素直に伝えることの大切さ、物事を否定的に考えるのではなくポジティブに捉えることの重要性を改めて選手達から学んだように思います。現状を見極めながら知恵を使って工夫する姿、多面的に思考し、前向きに行動していくことは、人間にしか成しえないことだと改めて感じた次第です。

また、今年度こそは全国大会を対面で開催することを願っておりましたが、新型コロナウイルスのデルタ株が蔓延し第5波が長引いたため、昨年に引き続き、オンラインによる開催となりました。今回の大会は、「SDGsを目指したこれからの秘書の役割 ～アフターコロナに備えて～」という興味深いテーマでして、どのような時代になってもさまざまな立場の人間が立ち向かう姿を理想として、コロナ後の社会を見据えて再考していく機会となりました。

本学会でも、社会の変化に対応しながら会員の皆様方の研究促進となり、交流の場を提供できる学会を目指たく存じます。ご協力の程、お願い申し上げます。

2019～2021 年度 役員 (2019 年改選)

(2022 年 2 月 28 日現在)

【会長】

平田祐子 (大阪国際大学短期大学部)

【副会長】

四之宮玲子 (日本大学)

藤村やよい (久留米信愛短期大学)

【常任理事】

大塚 映 (湘北短期大学)

東野國子 (四天王寺大学)

【理事】

兒島尚子 (大阪樟蔭女子大学)

笹瀬佐代子 (常磐短期大学)

辻 京子 (一般社団法人日本秘書協会)

福井愛美 (神戸女子短期大学)

道添栄一 (愛知学院大学)

【監事】

飯塚 淳 (科学技術振興機構)

柚木崎千春 (南九州短期大学)

(五十音順)

【事務局】

上野真由美 (名古屋女子大学短期大学部)

第30回全国大会・通常総会 オンライン開催

2021年11月14日（日）、大会テーマを「SDGsを目指したこれからの秘書の役割～アフターコロナに備えて～」とし、昨年につきZoomによるオンライン形式で開催された。

大会委員長 ご挨拶

第30回大会委員長

兒島 尚子（大阪樟蔭女子大学）

日本国際秘書学会第30回全国大会は、2021年11月14日（日）、Zoomによるオンライン形式で開催されました。今回のテーマは「SDGsを目指したこれからの秘書の役割～アフターコロナに備えて～」として、COVID-19の感染拡大が長引く中、アフターコロナに備えて、どのような力を付けておくべきかということを考えるよい機会となりました。

午前中は総会が行われ、午後には平田裕子会長のご挨拶ののち4件の研究発表が行われました。いずれのご発表も興味深く、会員にとりましてたいへん勉強になりました。

その後、コクヨ株式会社 秘書室長 久田美香氏から、「秘書実務の変化とこれからの秘書の役割～コロナ禍を通して見えてきたこと～」についてご講演いただき、質疑応答が行われました。長年秘書として、また秘書を育てる管理職としてご活躍なさってこられました久田氏の講演では、社会の変化に合わせてサステナブルに企業価値を向上しながら成長していく多様な事業の集合体となることを目指す中で、社員の意識変化や秘書の役割・成長についてお話しくださいました。活発な質疑応答がなされ、たいへん充実した時間となりました。

今大会の開催に際し、ご多忙にもかかわらず全国各地からご参加いただきました皆様には、心から感謝申し上げます。また、大会委員を快くお引き受けくださり、校務でお忙しい中運営に携わっていただきました大会委員の皆様にも心より感謝申し上げます。

■プログラム

研究発表Ⅰ 「遠隔によるキャリア教育の一手法としてのキャリアインタビュー
ーテキストマイニングによる教育効果の検証ー」

大阪樟蔭女子大学 高松 直紀

座長：東野 國子

研究発表Ⅱ 「オンライン授業における効果的なインストラクションのあり方」

大阪国際大学短期大学部 三次 亜紀子

座長：四之宮 玲子

研究発表Ⅲ 「速記原本の第三者解読の可能性と意義」

Speech to Text Lab. 兼子 次生

座長：辻 京子

研究発表Ⅳ 「街の魅力発信を通してSDGsを目指す地域貢献活動ー地域を紹介する広報紙の作成ー」
名古屋女子大学短期大学部 箕浦 恵美子・上野 真由美
座長：大塚 映

基調講演 「秘書業務の変化とこれからの秘書の役割 ～コロナ禍を通して見えてきたこと～」
久田 美香氏（コクヨ株式会社 秘書室長）
講師紹介：藤村 やよい

ディスカッション 基調講演者 久田氏との質疑応答
コーディネーター：藤村 やよい

■第30回全国大会 大会委員

委員長 児島 尚子（大阪樟蔭女子大学）
副委員長 若生 眞理子（滋賀短期大学）
委員 河合 真知（四条畷学園短期大学）
串田 敏美（産業能率大学）
高松 直紀（大阪樟蔭女子大学）
東野 國子（四天王寺大学）
福井 愛美（神戸女子短期大学）
藤村 やよい（久留米信愛短期大学）

大会テーマ：「SDGs を目指したこれからの秘書の役割

～アフターコロナに備えて～」

基調講演

「秘書業務の変化とこれからの秘書の役割
～コロナ禍を通して見えてきたこと～」
久田 美香氏（コクヨ株式会社 秘書室長）

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちは、生活スタイル、職場環境、勤務形態など、さまざまな変化を余儀なくされた。現状維持すら困難な環境下ではあるが、当社は2021年2月に企業理念を刷新、既存事業の領域拡大と新規事業の創出を進め、成長を志向する長期ビジョンを対外発表した。社会の変化に合わせてサステナブルに企業価値を向上しながら成長していく多様な事業の集合体となることを目指す中で、社員の意識変化や秘書の役割・成長について述べる。

2020年4月に緊急事態宣言を受け、半ば強制的に在宅勤務にシフトしたことで、秘書業務の在り方そのものも変更を強いられた。

コロナ前は、育児や介護などを担う一部の社員を覗いて、社員・役員は100%出勤していたが、緊急事態宣言を受けた直後は、全国の主要オフィスを閉鎖、宣言が明けた後は、20~40%の出勤率となった。但し、役員に関しては長期ビジョン策定中でもあり出勤率は80%、秘書は60~80%の出勤率であった。

コミュニケーションのツールは、口頭・メール・SMS・電話から、メール・チャット・SMS・電話・口頭・web会議等に変わり、否が応でもITリテラシーをアップさせる必要があった。しかし、このお蔭で、会議資料の減少、役員自立度合のアップ、過剰なサービス（お茶出しや役員の昼食の買い出しなど）を停止、郵便物・外線電話が減少し、また情報共有の意識アップ、役員会議のweb化に伴い、秘書もオブザーブ的な立場で会議に入ることができるなど参加のハードルが低くなったことで、情報入手の手段が増えたのは大きなメリットであった。

もちろん、諸々のデメリットもあるが、このハイブリッドワーク（リモートとリアル）から見えてきたことは、チームで仕事をするための「見える化」「秘書の在り方」「コミュニケーション」の大切さであった。

また、主たる秘書業務を、①処理・手配業務（経理処理・通信業務・名刺管理・出張・贈答・接待・会議手配業務、文書作成など）②コミュニケーション業務（冠婚葬祭関連業務や来客・電話対応など）③スケジューリングの三つに大別し、①は在宅でも可能なため、アウトソーシングできないか、②は継続、またはコロナ禍で不要と判断した業務については、可能な限り復活させず機会を減らすことを検討、③のスケジューリングに注力し、より多角的・深化した関わり方を模索、メリハリのある働き方をすべきではないかと考えている。

今後求められる秘書像については、経営環境の変化に対応すべく、業務のシフト化を進め、従来の役割をより「経営と並走する形」に変化させる。スケジューリングを秘書業務の最重要事項と定め、ハブ機能の強化に注力する。また、秘書が自律的に機能できる仕組みを構築することを起因に秘書の在り方を考えるべきではないかと思う。

久田美香氏ご略歴：

1988年 プール学院短期大学を卒業後、コクヨ株式会社に一般職として入社。

家具事業本部にて予算管理業務、営業本部専務取締役付き秘書。その後1年間の育児休暇を経て、復帰後はE S事業部にて生産管理業務を担当。この間、総合職に転換し、社長室に異動。監査役、常務取締役の担当秘書を担いながら、グループ内秘書研修や組織内業務改善に取り組む。その後、会長室にて代表取締役会長の担当秘書を経て、2020年7月から取締役室 秘書ユニットマネージャー。2021年1月から秘書室長。

秘書技能検定準1級・サービス接客検定準1級面接試験実施担当者、一般社団法人日本秘書協会理事。現在、東京で単身赴任中。

基調講演における質疑応答

コーディネーター 藤村 やよい

基調講演者久田氏と参加者との活発な質疑応答が行われた。

(詳細は「研究年報29号」に記載)

.....

研究発表 I

「遠隔によるキャリア教育の一手法としてのキャリアインタビュー

ーテキストマイニングによる教育効果の検証ー」

高松 直紀 (大阪樟蔭女子大学)

本研究は、遠隔授業によるキャリア教育の一手法としてのキャリアインタビューに焦点をあて、履修生へのアンケート調査から教育効果の検証と課題を明らかにすることを目的とした。その結果、キャリアインタビューの教育効果として職業理解と働くことへの関心の深化、働くことを中心としたキャリア形成のための準備意識の萌芽、働くために必要な課題の発見と目標の設定、ダイバーシティ視点の促進が明らかになった。課題は、グループワークによるインタビューの練習が実施できずインタビュースキルの不足が懸念されること、キャリアインタビューの成果を履修生間で共有できないことなどがあげられた。課題への対応策は、教育教材として講義動画に担当教員による模擬インタビューを取り入れることやスキルチェックシートを配布すること、発表を伴う授業回のみテレビ会議システムを活用した双方向の遠隔授業を実施し、履修生間で成果を共有することなどが考えられる。

研究発表 II

「オンライン授業における効果的なインストラクションのあり方」

三次 亜紀子 (大阪国際大学短期大学部)

『新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査』(文部科学省)の結果によると、オンライン授業の満足度は、「満足」が「満足していない」を大きく上回った。一方で、理解のしにくさなど、不満を持つ学生もおり、オンライン授業の実施に当たっては、学生の声を丁寧に聞き、質の向上に努めることが必要としている。

そこで、オンライン授業での効果的なインストラクションについて考察し、リアルタイム型、オンデマンド型など運営別に、独自の学生アンケートにおいて満足度の高かった実践例を述べる。

例えば「指示が明確でわかりやすかった」との声が多かったのが、表示スライドのアニメーションの効果的な活用である。説明箇所を明確にするだけでなく、画面に変化を加えることで集中力を途切れさせない効果もあった。

オンライン授業では、対面よりも丁寧な指示や声かけ、わかりやすい資料の作成など、講義の抑揚が肝要である。

研究発表 III

「速記原本の第三者解読の可能性と意義」

兼子 次生 (Speech to Text Lab.)

戦後、日本は、連合国軍総司令部（GHQ）の占領地政策により教育労働者が誕生し、教育民主化が進んだ。いま教育社会学では戦後教史の研究に力が入っている。筆者らは2016年11月15日、代表の広田照幸日本大学教授が要請する「戦後日本における政治・経済変動が教育労働運度にも与えた影響に関する研究」（平成28～30年度）で日教組中執委員会議事録に未解読のまま残る速記史料の解読に挑戦、続いて布村育子埼玉学園大学教授の「政治的葛藤が日教組の平和運動・平和教育にも与えた影響の考察」の解読を進めている。速記界初の取り組みに菅原登、平野明人、菅原真悟が最初から参加して解読中。一方、岡島昭浩大阪大学教授が代表の「過去の速記原本を可読化するための日本語速記史の研究」は2年目に入った。国語速記発表140周年の本年、速記の新しいページが始まった。

研究発表 IV

「街の魅力発信を通してSDGsを目指す地域貢献活動

—地域を紹介する広報紙の作成—

箕浦 恵美子・上野 真由美 (名古屋女子大学短期大学部)

本事例は短期大学で生活学を学ぶ学生が、SDGsを目指す地域貢献の授業で取り組んだ実践報告である。地域を紹介する広報紙作成の地域貢献活動では、SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」を目標に掲げた。目標11はだれもが身近な生活の中での小さな取り組みから始めることが出来る。たとえば人と人とお互いに気持ちよく過ごすために挨拶をしたり、地域の人に声がけをしたりすることや、街の魅力を知ってもらうためや、地域をより良くするために地域貢献の活動などを行い、地域の人と関わることで、相手を慮ることが出来るのである。SDGsを目指す地域を紹介する広報紙の作成を通して、地域の人と関わる地域貢献活動の取り組みを報告した。

2021(令和3)年度 通常会員総会 議事録

議事次第

1. 日時 2021(令和3)年11月14日(日) 11:00～12:00

2. 方法 オンライン開催

3. 議案

<報告事項>

1. 会員数の動向について
2. 2020(令和2)年度事業報告

<審議事項>

議案1 2020(令和2)年度収支決算について

- (1) 2020(令和2)年度収支決算報告
- (2) 2020(令和2)年度監査報告

議案2 2021(令和3)年度事業計画ならびに収支予算案について

- (1) 2021(令和3)年度事業計画(案)について
- (2) 2021(令和3)年度予算(案)について

<その他>

4. 成立要件 出席者 18名 委任状 25名 計 43名 ※会則第20条5項

5. 議長 会長 平田 祐子 ※会則第20条6項

開会

事務局より、定刻に総会を開会する旨の発言があり、続いて、総会成立要件について説明が行われた。総会出席者数及び委任状の総計が全会員数の過半数に達しており、成立要件を満たしているとの報告がなされた。その後、会則第20条6項により、議長を平田会長が務めた。

報告事項

(1) 会員数の動向について

四之宮副会長より、会員数の動向および入退会者の状況について、下記の表の通り報告がなされた。

① 会員数

会員の種類	2020年度通常総会時	2021年度通常総会時
名誉会員	0名	0名
個人会員	65名	62名
学生会員	1名	2名
賛助会員	0名	0名
会員総数	66名	64名

② 入退会等状況（2020年度総会以降～2021年度総会時）

入会者 : 個人4名 高松直紀 箕浦恵美子 森田篤司 柏木葉子

退会者 : 個人6名 加藤晴美 大津洋子 浅野浩子 水谷慶子 森 久子 川田千恵子

資格喪失者 : なし

物故者 : なし

(敬称略)

(2) 2020(令和2)年度事業報告

……資料1-1～1-3参照

四之宮副会長より、資料1-1に基づいて2020(令和2)年度(第29回全国大会含む)の事業報告がなされた。兒島西日本支部長より、資料1-2～1-3に基づいて2020(令和2)年度の東日本支部会活動報告と西日本支部会活動報告がなされた。

審議事項

議案1 2020(令和2)年度収支決算について

(1) 2020(令和2)年度収支決算・監査

……資料2-1～2-4参照

東野会計理事より、資料2-1～2-4に基づいて2020(令和2)年度の収支決算報告がなされた。柚木崎監事より、去る10月24日に飯塚監事および柚木崎監事の立会いのもと監査を実施し、収支決算が正確であり適切に処理されたことが確認された旨、報告がなされた。審議の結果、異議なく承認された。

議案2 2021(令和3)年度事業計画ならびに収支予算案について

(1) 2021(令和3)年度事業計画(案)について

……資料3-1参照

藤村副会長より、資料3-1に基づいて2021(令和3)年度の事業計画(案)について説明がなされ、異議なく承認された。

(2) 2021(令和3)年度収支予算(案)について

……資料3-2参照

東野会計理事より、資料3-2に基づいて2021(令和3)年度の収支予算(案)について説明がなされ、異議なく承認された。

諸連絡

2022年度 第31回全国大会開催は、東日本支部が担当する。

また、編集委員に2021年9月から高池宜彦先生(常盤短期大学)が就任されたことが発表された。

閉会

議長により、12時に閉会が宣言され、散会した。

以上

資料 1-1

(1) 2020 (令和 2) 年度事業報告

1. 報告の事業年度

2020 (令和 2) 年 9 月 1 日～2021 (令和 3) 年 8 月 31 日

2. 報告の事業概要

① 2020 (令和 2) 年 11 月 7 日 (土) 11:00～17:00

第 29 回全国大会開催 (Zoom によるオンライン)

担当支部: 東日本支部

統一テーマ「新たなグローバル社会と共感力 - コロナ禍で変化するビジネス環境への対応 -」

大会委員長: 笹瀬佐代子

② 2021 (令和 3) 年 2 月 28 日 ニュースレター No. 34 発行

広報統括理事: 大塚 映

③ 2021 (令和 3) 年 8 月 1 日 研究年報 第 28 号発行 (64 ページ)

「研究ノート」1 編

「レポート」2 編

「大会報告」第 29 回全国大会 報告 基調講演

編集委員長 道添栄一

編集委員 河合真知 北村雅昭 伊藤理絵

3. 支部研究会・ワークショップ

- ・東日本支部 支部研究会 1 回開催 東日本支部長 笹瀬佐代子
- ・西日本支部 支部研究会 1 回開催 西日本支部長 児島 尚子

4. 役員会

理事会 13 回開催 (サイバー会議)

理事連絡会 多数開催 (サイバー会議)

5. 各種委員会

I. 第 29 回全国大会委員会 サイバー会議多数開催 (担当 東日本支部)

II. 第 30 回全国大会委員会 1 回、サイバー会議多数開催 (担当 西日本支部)

III. 研究年報編集委員会 サイバー会議多数開催

資料 1-2

東日本支部会活動報告

東日本支部長 笹瀬 佐代子

(1) 支部会

東日本支部会

日 時: 8 月 31 日 (火) 11:00～12:00 (Zoom によるオンライン)

(2) 支部研究会

日 時: 2021 年 8 月 31 日 (火) 10:00～11:00 (Zoom によるオンライン)

テーマ: 講演「国連の難民支援活動 一緒方貞子さんと仕事をした日々」

講 師: 特定非営利法人 国連 UNHCR 協会事務局長特命・渉外担当 中村 恵様

参加者: 会員 16 名、非会員 11 名、計 27 名

西日本支部会活動報告

西日本支部長 兒島 尚子

(1) 支部会

西日本支部会

1月～8月多数開催（サイバー会議）

3月 会議（大阪樟蔭女子大学にて）

(2) 支部研究会

日 時：2021年8月30日（月）13：00～15：00

（Zoomを用いての研修会）

テーマ：「遠隔授業方法・コロナ後の教育の在り方について」

参加者：13名

2020（令和2）年度収支決算及び監査報告

一般会計収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
2020（令和2）年度一般会計収支決算書
（2020年9月1日～2021年8月31日）

（単位：円）

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,713,681	研究年報発行費	70,634
東日本支部繰越金	10,377	印刷費	0
西日本支部繰越金	12,842	通信費	12,395
会員年会費	513,000	広報活動費	39,600
（個人会員〔含過年度分〕	485,000)	消耗品費	880
（学生会員	0)	会議会合費	0
（アソシエイト会員	28,000)	旅費交通費	0
雑収入	0	支部委託金	60,000
預貯金利息	12	雑費	0
		租税公課	0
		手数料	3,850
		分科会活動費	0
		特別活動費	0
		全国大会費用	7,816
		次年度繰越金	2,054,737
合計	2,249,912	合計	2,249,912

注）第29回全国大会報告、各支部会計報告は含まれていない。

2021年10月15日

会計担当理事 東野 國子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2020(令和2)年9月1日から2021(令和3)年8月31日までの期間の関係帳票および会計報告を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2021年10月24日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



東日本支部収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
2020年度 東日本支部 収支報告書
(2020年9月1日～2021年8月31日)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
支部運営費	30,000	講師料	15,000
研究会参加費	0	会議費(会場費・飲食代)	0
預貯金利息	0	交通費	0
		通信費	1,363
		消耗品費	1,000
		菓子代	2,160
		支払手数料	100
		預貯金利息繰越金	0
		次年度繰越金	10,377
合計	30,000	合計	30,000

2021年9月30日

東日本支部長

笹瀬 佐代子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2020(令和2)年度 特別会計(東日本支部通常資金収支報告)会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2021年10月24日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



西日本支部収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
2020 年度 西日本支部収支報告書
(2020 年 9 月 1 日～2021 年 8 月 31 日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
支部運営費	30,000	会議費	0
研究会参加費	0	講師料	0
預貯金利息	0	通信費	0
		消耗品費	17,158
		預貯金利息繰越金	0
		次年度繰越金	12,842
合計	30,000	合計	30,000

2021 年 8 月 31 日

西日本支部長

兒島 尚子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の 2020(令和 2)年度 特別会計(西日本支部通常資金収支報告)会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2021 年 10 月 24 日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



特別会計収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
2020年度 第29回全国大会収支報告書
(2020年11月7日開催)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
借受金	150,000	借受金返済	150,000
全国大会参加費	51,000	会議費	2,376
(会員 25名 50,000円)		講師料	40,000
(ピジター 1名 1,000円)		(富田氏 30,000円)	
		(高池氏 10,000円)	
		印刷費	0
		交通費	0
		通信費	13,492
		消耗品費	1,463
		振込手数料	1,485
全国大会費用	7,816	雑費	0
合計	¥208,816	合計	¥208,816

2021年2月9日

会計担当 山本 恭子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2020(令和2)年度 特別会計(第29回全国大会収支報告)会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2021年10月24日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



資料3-1

2021（令和3）年度事業計画ならびに収支予算案について

（1） 2021（令和3）年度事業計画

1） 事業年度

2021（令和3）年9月1日～2022（令和4）年8月31日

2） 事業概要

- ① 2021（令和3）年11月14日（日） 2021年度通常会員総会の開催（オンライン開催）
- ② 2021（令和3）年11月14日（日） 第30回全国大会開催
大会開催担当支部：西日本支部
開催方法： オンライン開催（大会事務局）
大会委員長： 児島尚子（大阪樟蔭女子大学）
- ③ 2022（令和4）年2月 ニュースレターNo. 35 発行
- ④ 支部会・ワークショップ
東日本支部 2回程度開催予定
西日本支部 2回程度開催予定
- ⑤ 役員会
理事会兼役員会 数回開催
- ⑥ 各種委員会
 - ・ 第30回全国大会委員会 随時サイバー会議の開催
 - ・ 第31回全国大会準備委員会 開催
全国大会に向けての準備委員会を発足し、スケジュールを立てる。
委員長・副委員長を選任し委員の各担当を決定する。
大会事務局を設置する。
 - ・ 研究年報編集委員会 随時サイバー会議の開催

(2) 2021 (令和3) 年度予算 (案) について

(2021 年 9 月 1 日～2022 年 8 月 31 日)

収入の部			支出の部		
科目	2020 年実績	2021 年予算	科目	2020 年実績	2021 年予算
前年度繰越金	1,713,681	2,054,737	研究年報発行費	70,634	100,000
東日本支部繰越金	10,377	-	印刷費	0	0
西日本支部繰越金	12,842	-	通信費	12,395	20,000
全国大会収益	0	0	広報活動費	39,600	50,000
会員年会費	513,000	550,000	消耗品費	880	10,000
雑収入	0	-	会議会合費	0	30,000
預貯金利息	12	12	旅費交通費	0	60,000
			支部委託金	60,000	60,000
			雑費	0	5,000
			手数料	3,850	3,000
			租税公課	0	1,000
			分科会活動費	0	10,000
			研究促進名簿	0	-
			研究年報デジタル化	-	150,000
			予備費 (大会費用)	7,816	50,000
			次年度繰越金	2,054,737	2,055,749
合計	2,249,912	2,604,749	合計	2,249,912	2,604,749

2021 年度予算の補足説明

① 「研究年報デジタル化」について

バックナンバーの保管場所確保や、バックナンバーのお問い合わせに定めるために研究年報のデジタル化を検討しており、今回 150,000 円を計上する。

② 「予備費 (大会費用)」について

今年度も全国大会が Zoom での開催となり、大会費用が発生することを考慮して、予備費として 50,000 円を計上する。

支部だより

【東日本支部】 東日本支部長 笹瀬佐代子

◆活動計画

- ・東日本支部活動予定

日程：未定

場所：未定

- ・2022 年度全国大会

日程：未定

場所：未定

◆会員の皆様

2021 年 8 月に行われた東日本支部会では国連 UNHCR 協会の中村恵氏をお招きし、「国連の難民支援活動一緒方貞子さんと仕事をした日々」と題し、講演会を開催しました。緒方貞子さんや UNHCR の話を伺いながら、海外で働くという選択肢を学生に紹介することができるのではないかと考えました。閉塞的な日本の状況が変化することを願います。

コロナウィルスの収束には、まだ時間がかかりそうです。皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

【西日本支部】 西日本支部長 児島尚子

◆活動計画

- ・西日本支部活動予定

日程：2022 年 8 月予定

場所：大阪市内予定

◆会員の皆様

昨秋の西日本支部主催の第 30 回全国大会では、多くの方々にご参加いただきまして、心から感謝いたしております。今回も Zoom によるオンライン開催となり、残念に思いましたが、昨年同様ご遠方の方々ともお目にかかることができ、たいへん嬉しゅう存じました。

コロナ禍で、企業も大学も仕事の仕方に大きな変化がありました。こんなに長く続くとは予想しておりませんでしたので、もう一度気を引き締めて、勉強を重ねていかなければいけないと痛感いたしております。

今後も、皆様の研究の一助となります活動の機会を設けてまいりたいと存じますので、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

事務局からのお知らせ

第31回全国大会 予告

開催日時：2022年 秋頃（決定次第HPにてお知らせします）

開催会場：未定

東日本支部主催

◎JAISS 研究年報の既刊号を販売しています。

購入希望の方は本部事務局までご連絡ください。（1部1,000円）

◎会員情報の変更届について

ご住所、所属機関、連絡先等のご変更が生じましたら本部事務局までメールでご連絡ください。

本部事務局 E-mail:jaissjimukyoku@gmail.com

◎新入会員をご推薦ください。

入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

<http://www.jaiss.sakura.ne.jp/nyukai.htm>

「2022年より、会員1名の推薦者を記載して申し込むこと」となりました。

参考（入会資格に関する内規）

入会資格は、次に掲げる要件のうち、いずれか一つを満たすこととします。

- (1) 4年制大学卒以上の学歴および専門分野における研究業績を有すること。
- (2) 4年制大学卒業以上の学歴で研究業績がない場合は、実務経験3年以上であること。
- (3) 短期大学卒業の場合は、実務経験5年以上であること。
- (4) 高校卒業の場合は、実務経験7年以上であること。

日本国際秘書学会 発行

本部事務局

〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40

名古屋女子大学短期大学部 秘書学研究室内

Tel : 052-852-9426 (直通)

Fax : 052-852-7470

Eメール: jaissjimukyoku@gmail.com

ホームページ:<http://www.jaiss.sakura.ne.jp/index.htm>